

朝日新聞 平成24年 10月20日

(有) 内田 燃 糸

顧客要望「娘に北海道の雪見せたい」

車いすタイヤ用 滑り止めベルト

燃糸加工を手がける「内田燃糸」（福井市神当部町）が、雨や雪、路面凍結時も車いすが安全に走行できるよう、タイヤに装着する滑り止めベルトを開発した。車いすの利用者の家族からの要望をきっかけに、同社が特許を持つ靴底用の滑り止めベルトと同じ素材を使って製品化した。

福井の「内田燃糸」

「車いすの娘にどうしても北海道の雪景色を見せてやりたい」。昨年3月、同社に奈良市の女性から電話があった。女性は同社が開発した靴底用の滑り止めベルトを利用した経験から、車いすのタイヤに取り付ける同様の商品を探し求めていると訴えた。

同社は、ポリプロピレン系の繊維に天然ゴムを織り込んだ特殊複合織物を使って靴底用の滑り止めベルトを開発し、2008年7月に特許を取得した。車いす用のベルトも同じ素材を使えば製品化できると考え、女性の要望に応えることにした。

靴底向け応用 凍結路面OK

まず、タイヤの全面を覆うタイプのベルトを試作した。女性や北海道の車いす販売店に試作品を送り、実際に使ってもらったところ、走行中にベルトがずれたり、しわが入ったりすることが判明した。このためベルトの形状をシグザグにし、タイヤの一部が露出するように改良を加えた。

社内でも実験を重ね、ベルトを装着すれば、氷の上でもタイヤが空回りせずにゆっくりに走行できることを確認した。装着は乗用車用のタイヤチェーンと同じように、タイヤを少しずつ回しながらかぶせるだけで、簡単に脱着できるという。たたんで袋に入れ、持ち運びもできる。

完成した製品は「おでかけリング」と命名し、11月から販売を始める。1万2600円（税込み）で、タイヤの大きさごとに3種類のサイズを用意した。同社の内田一朗社長は「車いすの利用者の中には、冬場の外出を控えている人もいる。ベルトを活用することで、より安全に移動できるようにになればうれしい」と話した。問い合わせは内田燃糸（0776・93・2052）。

（日比真）



町 車いすのタイヤにシグザグ状の滑り止めベルトを取り付ける内田燃糸の内田一朗社長（福井市神当部町）